

ロシア東部地域と中国諸省の協力の発展について

極東ザバイカル経済協力協会事務総長代理 アナトーリイ・ブールイ

はじめに

ロシア東部地域と中国東北諸省との国境協力の従来モデルは、本質的に変貌しつつある。

国際関係の観点からも、東シベリア及びロシア極東の地域開発という文脈においても、ロシアはアジアへ方向転換しつつある。中国との関係の強化は、現段階のロシアの対外政策と経済協力において支配的な思想となりつつある。

近年、社会的な意義のある二国間プロジェクトの実施を受けて、ロシア東部の国境地域と中国東北部との地域間交流にいつそう拍車がかかった。

ロシア極東と中国の近隣地域との投資協力が、2009年9月にロシア連邦大統領と中華人民共和国国家主席によって承認された「ロシア連邦極東・東シベリア地域と中華人民共和国東北部の協力プログラム（2009～2018）」の枠内で推進されている。

このプログラムの目的は、ロシアと中国の地域発展戦略の実現に係る努力や、連邦特定目的プログラム「極東・ザバイカルの経済社会発展」及び「中国東北地区振興計画」の推進に係る活動を調整することである。このプログラムは、中国との地域間交流発展の主要メカニズムの一つとみなされている。プログラムの遂行を調整する担当省庁は、ロシア連邦地域発展省と中華人民共和国国家発展改革委員会である。

この協力プログラムに含まれている主な連携分野は、検問所の整備、国境インフラの建設及び改修、地域協力の重要プロジェクトの実行、さらに環境保護分野での国際連携である。

このプログラムを遂行することは、2011年3月31日付ロシア連邦政府命令No.553-rによって承認された「『2025年までの極東・バイカル地域社会経済発展戦略』実現事業計画」（第61項）に規定されている。ロシア地域発展省のほか、関連する連邦行政機関、ロシア連邦構成主体行政機関が、同計画の当該項の実施担当機関とされた。

ロシア東部地域と中国東北部の間の貿易高は、これまでに50億ドルから125億ドルに増加した。

中国の企業は、「アムール製油所」の建設、アムール州ブラゴベシチェンスク市北部居住区の住宅建設、アムール州とユダヤ自治州の採鉱・冶金クラスターの形成、ザバイカル地方の木材産業の形成等に参画している。

中国政府によって一連の総合的方策が講じられた結果、

アムール川流域の生態環境は大幅に改善した。

2009年の金融・経済危機以降、ロシア東部地域から中国へ、また中国からロシアへの観光客数が徐々に回復しており、その数は年間100万人に迫りつつある。

貿易・投資の動向

2013年にはロシア極東及びザバイカル地域の対中国貿易額は、14%拡大（対前年比。以下同じ）して125億2,200万ドルになった。2013年、極東・ザバイカル地域の対アジア太平洋諸国貿易高における中国のシェアは29%となった。

2013年の極東・ザバイカル地域の対中国輸出額は12%拡大し、61億9,600万ドルに達した。ロシア東部地域の対中国輸出の品目構成は、石油・石油製品44%、水産品16%、木材・木材製品13%となっている。ESPOパイプライン第1期分の稼働以降、石油・石油製品の輸出の増加が続いている。2013年には輸出品目構成の44%に拡大した。金額では、2009年の6億8,100万ドルから2013年の27億500万ドルに増加した。

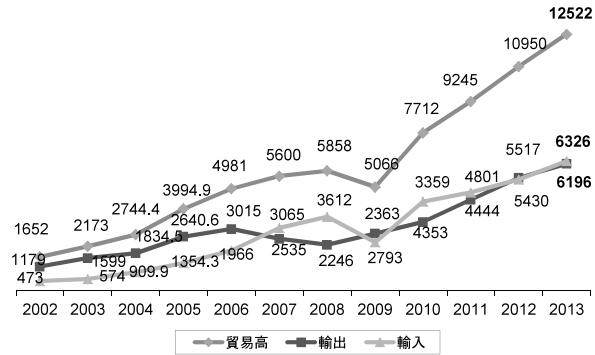
2013年、ロシア東部地域の対中輸入額は2012年比で17%拡大し、63億2,600万ドルになった。中国からの機械・設備の輸入額は2012年比で63%拡大し、27億4,200万ドル、ロシア東部地域の対中国輸入の43%となった。2013年の金属・金属製品の輸入額は6億800万ドルとなり、2012年の水準を10%超え、ロシア東部地域の対中国輸入額の10%となっている。

2013年には、国境交通インフラの整備に拍車がかかった。沿海地方で「マハリノ～琿春」間の鉄道支線が再開され、ハバロフスク地方ではロシア側から大ウスリー島に向かう橋梁が完成し、ユダヤ自治州では「ニジニレニンスコエ～同江」間アムール川横断橋が着工した。

2013年、中国はロシア東部地域の経済に1億4,100万ドルを投資したが、これは2012年の水準を18%上回っている。ただ、対ロシア東部地域外国投資総額における中国投資の貢献度は2%だった。

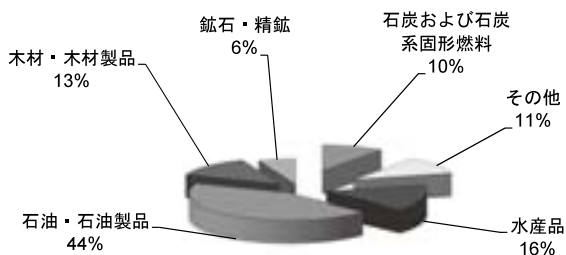
上述のプログラムの一定段階が終了したことで、達成された肯定的な成果と並んで、複数の問題も明らかになった。具体的には、プログラムの遂行に携わる機関の作業が非効率率であること、ロシア連邦におけるプログラム関連プロジェクトへの資金供給が縮小したこと、大型プロジェクトの実行のための労働力が不足していることである。

図1 極東・ザバイカルと中国の貿易高の推移(100万ドル)



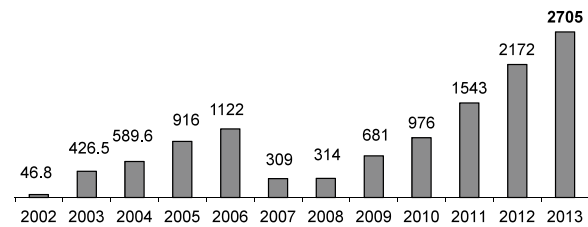
データ出所：ロシア連邦極東税関

図2 2013年の極東・ザバイカルの対中国輸出品目構成



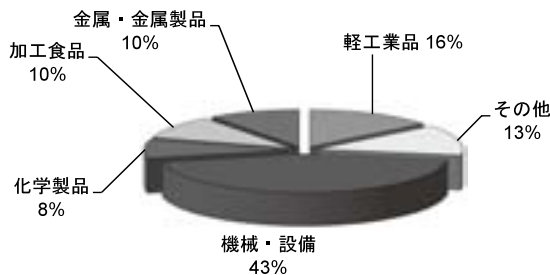
データ出所：同上

図3 極東・ザバイカル地域の対中国石油・石油製品輸出の推移(100万ドル)



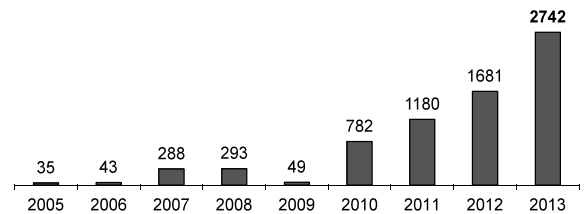
データ出所：同上

図4 2013年の極東・ザバイカル地域対中国輸入品目構成



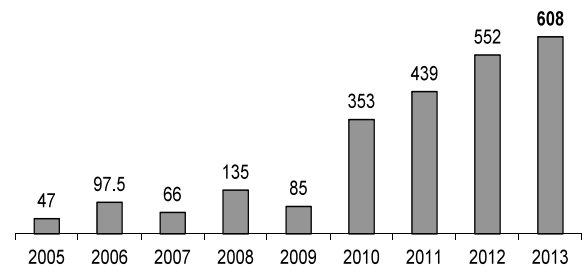
データ出所：同上

図5 極東・ザバイカル地域の中国からの機械・設備輸入の推移(100万ドル)



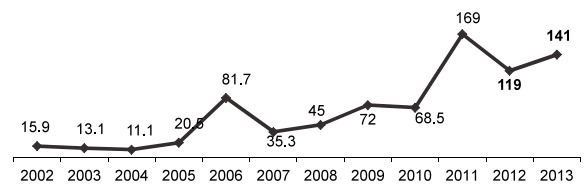
データ出所：同上

図6 極東・ザバイカル地域の中国からの金属・金属製品輸入の推移(100万ドル)



データ出所：同上

図7 極東・ザバイカル地域経済への中国資本の流入の推移(100万ドル)



データ出所：同上

現地行政機関によって講じられた国境協力発展のための様々な措置にもかかわらず、2013年の結果から判断して、ロシア連邦と中国の地域経済への投資の浸透は低水準のままだった。これを受けて、ロシアと中国の両方で、前述の問題の解決方法の模索が続いた。

当然ながら、これらの問題は解決可能だが、それがどれくらい早期にできるかは、21世紀の次の10年間のロシア極東におけるロ中協力がどれだけの規模になるかに左右される。

ロシア・中国地域間・国境貿易経済協力調整会議

1990年代の極東・ザバイカルと北東アジア諸国との協力の経験によって、定期的に発生する貿易上の問題を取り除くためには相応の仕組みが不可欠だということが明らかになった。ありふれた経済問題や人道問題と思われるものが、いつも政治の舞台に投影されていたのである。

1998年、ロシア東部地域と中国東北部の活動を調整する目的で、ロシア・中国地域間・国境貿易経済協力調整会議（以下、調整会議）が設置された。

ロシア側からは、対中国国境地帯（アルタイ共和国、ブリヤート共和国、アムール州、ザバイカル地方、ハバロフスク地方、沿海地方、ユダヤ自治州）の副知事、中国側からは、国境に隣接する五つの省及び自治区（黒龍江省、内モンゴル自治区、遼寧省、吉林省、新疆ウイグル自治区）の副省長・副主席が調整会議のメンバーとなった。

調整会議は、経済・貿易協力、法的枠組みの整備に始まり、環境問題、特に国境地帯の河川・湖沼（アムール川、ウスリー川、アルグン川、ハンカ湖）の環境問題の処理に至るまで、様々な問題を検討している。

調整会議第14回会合が2013年8月29日にヤクーツク市で開かれ、大型協力プロジェクト実施の問題、WTOの条件下での貿易経済協力の拡大方策、通関手続き・検問所・国境のインフラの改善に係る方策について話し合われた。

調整会議は、1997年にロシア・中国政府間委員会の決議にしたがって発足した国境・地域間貿易経済協力に関するロシア・中国常設作業部会と緊密に連携している。ロ中常設作業部会の活動は、貿易貨物量の増加と国境協力を支える法的基盤の改善に寄与してきた。

2012年7月、中国国務院によって、「中国東北地区が北東アジア地域に向けて開放する規画要綱」（2012～2020年）が承認された。この文書は、中国東北部とロシアを含む北東アジア諸国との経済協力の深化の大筋や課題を定めている。そこでは、北東アジア地域が「アジア太平洋地域及び全世界の最も影響力のある戦略的中心」に変貌しつつある

ことが記されている。このような状況にあって、中国は北東アジアにおける自国東北部の地位の強化、競争力の向上、発展の促進のため、自らの地理的位置と経済力を十分に活用するに違いない。

2013年3月の習近平国家主席のモスクワ訪問以降、国境協力の再構成の動きは中国側から始まった。

2013年9月、2020年までの「黒龍江と内モンゴル東北部地域国境地域開発解放規画」が中国国務院によって承認された。中国東北部の経済成長を促進する、相互補完的な輸出向け生産施設及び越境インフラの総合的システムの構築が、戦略的目標として定められた。

これを受けて、四つの国境地区を形成し、対外経済交流体制を構築することが予定されている。それぞれが隣接するロシアの地域との特定分野での関係発展を担う。

- ・「牡丹江・綏芬河」地区～沿海地方：「陸海」越境一貫輸送分野の協力
- ・「三江」地区（ジャムス、撫遠、同江）～ハバロフスク地方・ユダヤ自治州：農業分野、農機、建築資材、製材、石炭の高度加工の製造分野での協力
- ・興安地区（黒河、五大蓮池、伊春）～アムール州：発電、学术交流、製材、シリカ製品の製造分野での協力
- ・「フルンボイル・満州里」地区～ザバイカル地方：石炭の高度加工、冶金、発電、建築資材の製造分野での協力

おわりに

2013年、ロシアと中国は戦略的パートナーシップを継続して発展させ、それは地域間レベルの協力を促進し、両国の中小ビジネスの交流の発展に寄与した。

ロシア東部地域と中国東北部の将来的融合のためには、商品・資金・労働力の域内移動を可能にする法制度の整備、商品製造規格の整備及び投資環境の改善が必要不可欠である。

ロシア極東と中国の交流の発展の見通しは、ロシアの輸出の多様化にかかっており、その中には、高次加工品のシェア拡大、電力及び石油・ガス化学製品の輸出の拡大、航空機製造業のハイテク製品の輸出拡大、交通運輸・物流・環境・国境を越えた汚染の防止の分野での協力の拡大、教育サービスの輸出拡大を含む教育関連の連携の拡大などが含まれる。

[ロシア語原稿をERINAにて翻訳]